



神奈川県 NESIDチェックリスト

2026年9月
神奈川県衛生研究所 企画情報部 衛生情報課
(感染症情報センター) 作成

目 次

1	本チェックリストについて	1
2	全疾患 共通チェックリスト	2
(1)	全数把握対象疾患	3
(2)	定点把握対象疾患	9
3	主な全数把握対象疾患 疾患別チェックリスト	12
(1)	結核	13
(2)	コレラ	15
(3)	腸管出血性大腸菌感染症	17
(4)	E 型肝炎	19
(5)	デング熱	21
(6)	レジオネラ症	23
(7)	レプトスピラ症	25
(8)	アメーバ赤痢	27
(9)	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	29
(10)	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	31
(11)	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、 日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）	33

(12) クロイツフェルト・ヤコブ病	35
(13) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	37
(14) 後天性免疫不全症候群	39
(15) 侵襲性インフルエンザ菌感染症	41
(16) 侵襲性髄膜炎菌感染症	43
(17) 侵襲性肺炎球菌感染症	45
(18) 水痘（入院例に限る。）	47
(19) 梅毒	49
(20) 播種性クリプトコックス症	51
(21) 破傷風	53
(22) 百日咳	55
(23) 風しん	57
(24) 麻しん	59
(25) 薬剤耐性アシネトバクター感染症	61

4 主な定点把握対象疾患 疾患別チェックリスト	64
(1) 急性呼吸器感染症	65
(2) 突発性発しん	67
(3) マイコプラズマ肺炎	69

5 その他

(1) 【全数】【定点】修正時のお願い 71

(2) 【全数】届出が取り下げになったとき 71

(NESID データを削除するとき)

(3) 【定点】医療機関の休診等により届出様式の提出がない場合 72

6 参考文献 73

1 本チェックリストについて

日頃より感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases ; 以下、NESID）発生届出データに関する当所からのお問合せにご対応いただきましてありがとうございます。

当所からのお問合せは、令和4年には年間約300件、令和5年には年間約230件実施しています。そのなかには、別々の保健福祉事務所・センター・保健所（以下、保健所）に対するお問合せであっても、内容が同じであるケースが多数含まれます。そういったよく発生するケースの情報をまとめて共有することで、ご担当者様の負担を少しでも減らすことができれば、という思いから、本チェックリストを作成しました。

本チェックリストの「2 全疾患 共通チェックリスト」「3 主な全数把握対象疾患 疾患別チェックリスト」「4 主な定点把握対象疾患 疾患別チェックリスト」の構成は、各項目見開き2ページで、左ページがチェックリスト、右ページが解説となっています。発生届の確認やNESID入力時はチェックリストをご覧の上、ご対応いただき、お時間があるときに解説をご覧ください。また、「5 その他」で修正、削除、定点報告についても注意点等を記載しましたのでご参照ください。

本チェックリストをご活用いただくことで、より精度が高く現状を反映した患者情報が得られ、今後の感染症対策に役立てられることを目指しています。ご協力よろしくお願いいたします。

神奈川県衛生研究所 企画情報部 衛生情報課
(感染症情報センター)

本チェックリストは神奈川県衛生研究所経常研究「神奈川県域における感染症サーベイランスの精度向上に関する検討」（令和6～8年度）により作成しました。

2 全疾患 共通チェックリスト

特に重要な項目、これまでに修正が多かった項目を中心に記載しています。

2(1) 全数把握対象疾患①



チェックリスト

- ☐ 届出の時期は確認しましたか？
- ☐ 再届出の場合、届出対象かどうか確認しましたか？



1 届出の時期は確認しましたか？

感染症法により、類型別に下記の時期に届け出ることとなっています。

感染症類型別の届出（表 1）

報告	感染症類型	届け出るべき医師	時期
全数把握 対象疾患	一～四類感染症 新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	診断又は検案した医師	直ちに
	五類感染症（全数把握のうち、侵襲性髄膜炎 菌感染症・風しん・麻疹）		直ちに
	五類感染症（全数把握のうち、上記以外）		7 日以内
定点把握 対象疾患	五類感染症（定点把握）	指定届出機関（※）の管理 者	翌週の月曜日又 は翌月の初日
	疑似症		直ちに

（「神奈川県感染症対応の手引き」より）

届出に遅延があった場合は、診断した医療機関に確認の上、NESID 発生届の備考欄に遅延理由の記載をお願いします。

2 再届出の場合、届出対象かどうか確認しましたか？

再感染の場合は再度届出対象となります。

結核では、再治療者は再登録（再届出）対象となります（結核登録者情報サブシステムと同様の扱い）。

水痘（入院例）は初感染のみが届出対象となります。

2(1) 全数把握対象疾患②



チェックリスト

- ☐ 初診年月日、診断(検案)年月日、感染したと推定される年月日、発病年月日、死亡年月日の前後関係が間違っていないか？
- ☐ 初診年月日は、当該感染症の初診日ですか？

3 初診年月日、診断(検案)年月日、感染したと推定される年月日、発病年月日、死亡年月日の前後関係が間違っていないか？

一般的な時系列は、
感染したと推定される年月日

↓

発病年月日

↓

初診年月日

↓

診断(検案)年月日

であると想定されます。

前後関係が間違っている可能性があるときは、医療機関にご確認ください。

4 初診年月日は、当該感染症の初診日ですか？

「初診年月日」は、「当該感染症での初診日」です。

患者が他の疾患で初めて医療機関を受診した日が記載されている場合もあるため、ご確認ください。

2(1) 全数把握対象疾患③



チェックリスト

- ☐ 二重登録の確認はしていますか？
- ☐ 医療機関が直接入力したデータは確認していますか？



5 二重登録の確認はしていますか？

以下の「二重登録チェック」から確認することができます。



とくに結核で二重登録が多い傾向ですので、定期的な二重登録チェックにご協力をお願いします。保健所管轄地域をまたいでの二重登録は神奈川県衛生研究所衛生情報課（感染症情報センター）でチェックしています。確認次第各保健所に連絡させていただきますので、ご対応をお願いします。

6 医療機関が直接入力したデータは確認していますか？

医療機関が直接入力したデータであっても、内容の確認が必要です。「届出基準」「感染症発生動向調査事業における届出の質向上のためのガイドライン」に加え、本チェックリストもご参照の上、ご確認ください。

2(2) 定点把握対象疾患



チェックリスト

- ☐ 医療機関が直接入力したデータは確認していますか？
- ☐ 前週と比較し、報告数の極端な増減はありませんか？
- ☐ 例年の発生動向と比べ、季節外れの変化はありませんか？



1 医療機関が直接入力したデータは確認していますか？

まれに入力誤りがみられます。必ず一度入力内容を確認してください。

2 前週と比較し、報告数の極端な増減はありませんか？

集団発生や入力欄のずれによる急増・急減の可能性があります。

集団発生が疑われる際は神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）から連絡することがありますので、情報共有等のご協力をお願いします。

3 例年の発生動向と比べ、季節外れの変化はありませんか？

入力誤り、入力欄のずれの可能性があります。

▶ 医療機関の休診等により届出様式の提出がない場合

→ P72 参照



衛生博士

3 主な全数把握対象疾患 疾患別チェックリスト

疾患別に、特に重要な項目・これまでに修正が多かった項目を中心に記載しています。

3(1) 結核



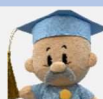
チェックリスト

- ☐ 「画像検査における所見の確認」に日本結核病学会病型分類（学会分類）を入力しましたか？

※神奈川県衛生研究所で結核の検査をする県所管域、茅ヶ崎市のみ必須

診断方法詳細
必須 ☐ ツベルクリン反応検査 ☐ 発赤 ☐ 硬結 ☐ 水疱 ☐ 壊死 ☐ リンパ球の菌特異蛋白刺激による放出インターフェロンγ試験 ☐ 画像検査における所見の確認 ☐ その他の方法

解 説



1 「画像検査における所見の確認」に日本結核病学会病型分類（学会分類）を入力しましたか？

学会分類は、接触者検診等で、神奈川県衛生研究所 微生物部と情報共有が必要となる場合があります。

接触者検診の病原体情報を入力する際に学会分類の入力があると NESID のシステム内で情報を自動で反映することができ、保健所からいただいた病原体情報の確認、誤入力の防止に役立ちます。

学会分類は結核の「別紙様式」の下記赤枠箇所となります（記入例：“b I 3”、“l IV 1”、所見なしは“0”）。

様式 1

<別紙>

1 当該者の状況	☐ 入院中 ☐ 入院予定 (年 月 日 医療機関名) ☐ 通院 ☐ その他 ()		
2 発見方法	☐ 医療機関受診 ☐ 接触者健診 ☐ 健康診断 ☐ その他 ()		
3 治療歴	☐ あり ☐ なし ☐ 不明		
4 菌検査情報	採取年月日: 年 月 日 塗抹検査: ☐ 実施 ☐ 未実施 検体: 喀痰・その他 () 結果: -・+ (ガフキー 号・±・1+・2+・3+) 培養: ☐ -・+ (検査中・未実施) 核酸増幅法 (PCR等): ☐ 実施 ☐ 未実施 検体: 喀痰・その他 () 結果: -・+ (PCR・LAMP・その他 ()) その他: ()		
5 <エックス線所見>	<日本結核病学会病型分類>		
 年 月 日撮影	病巣の性状	拡がり	病 側
	0		
	I	1	r
	II	2	l
	III		
IV	3	b	
V			

※「4 菌検査情報」欄は実施・未実施のいずれかを必ず○で囲んでください。

3(2) コレラ



チェックリスト

- 診断方法が「分離・同定による病原体の検出、かつ、分離菌における①毒素産生の確認、②PCR法による毒素遺伝子の検出のいずれかによるコレラ毒素の確認」であった場合、必要な項目にもれなくチェックしていますか？

12 診断方法

診断方法詳細

- ☐ 分離・同定による病原体の検出、かつ、分離菌における次の(1)、(2)のいずれかによるコレラ毒素の確認

毒素の確認方法

- ☐ (1)毒素産生
☐ (2)PCR法による毒素遺伝子

検体

- ☐ 便
☐ その他

血清型

- ☐ O1
☐ O139

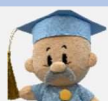
O1の抗原型

- ☐ 小川型
☐ 稲葉型

O1の生物型

- ☐ アジア型(古典型)
☐ エルトール型

必須



- 1 診断方法が「分離・同定による病原体の検出、かつ、分離菌における①毒素産生の確認、②PCR法による毒素遺伝子の検出のいずれかによるコレラ毒素の確認」であった場合、必要な項目にもれなくチェックしていますか？

診断方法



陽性結果が得られた診断方法を入力します。検査中のものは入力しません。

☐ 分離・同定による病原体の検出、かつ、分離菌における次の(1)、(2)のいずれかによるコレラ毒素の確認

「毒素の確認方法」、「検体」、「血清型」をそれぞれ必ず1つ以上選択します。

血清型がO1の場合には、抗原型と生物型も選択します。抗原型や生物型の検査が実施できない場合はその旨備考欄に入力します。

「検体」に「その他」がある場合には、空白にせずに具体的な検体名を必ず入力します。

☐ その他の方法

空白にせずに具体的な内容を入力します。ただし、その他の方法のみによる診断は原則として届出対象外です（地方感染症情報センター^{*}に確認してください）。

（NESID 入力画面 「診断方法」欄右上？マークより）

*神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）

3(3) 腸管出血性大腸菌感染症



チェックリスト

- ☐ 「毒素の確認方法」(①毒素産生/②PCR法等による毒素遺伝子の確認のいずれか) にチェックしましたか？
- ☐ 検体にチェックしましたか？
- ☐ O血清群およびベロ毒素型は入力しましたか？

12 診断方法

☐ 分離・同定による病原体の検出、かつ、分離菌における次の(1)、(2)のいずれかによるベロ毒素の確認

毒素の確認方法

☐ (1)ベロ毒素産生性試験陽性

☐ (2)PCR法等によるベロ毒素遺伝子の確認

検体

☐ 便

☐ その他

O血清群

☐ O

☐ 不明

H血清群

☐ H

☐ 不明

ベロ毒素

☐ VT1VT2

☐ VT1

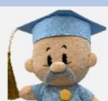
☐ VT2

☐ VT(型不明)

診断方法詳細

必須

解 説



1 毒素の確認方法（①毒素産生/②PCR法等による毒素遺伝子の確認のいずれか）にチェックしましたか？

届出基準上、「毒素産生の確認」「PCR 法等による毒素遺伝子の検出」いずれかによるベロ毒素の確認が必要です。

2 検体にチェックしましたか？

検体も必須項目ですので、チェックをお願いします。

3 O血清群およびベロ毒素型は入力しましたか？

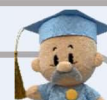
医療機関に確認の上、ご入力ください。不明の場合は不明にチェックをお願いします。

衛生博士のもっと！解説① VT1とVT2の両方が検出された菌の入力方法



「VT1VT2」を選択します（「VT1」「VT2」の2つは選択できません）。

衛生博士のもっと！解説② 複数の菌が検出された場合の入力方法



1) O血清群が同じでVT型が2種類の場合

O血清群の「O（入力値）」の欄に同じ数字を2回入力し（例：157,157）、ベロ毒素の欄は選択せず、「その他の方法（入力値）」にO血清群とともに入力します（例：O157VT1VT2,O157VT2）。

2) O血清群が異なる2種類の場合

O血清群の「O（入力値）」の欄に数字を2種類入力し（例：26,157）、ベロ毒素の欄は選択せず、「その他の方法（入力値）」にO血清群とともに入力します（例：O26VT1,O157VT2）。

衛生博士のもっと！解説③ 「血清でのO抗原凝集抗体又は抗ベロ毒素抗体の検出」

※HUS症例のときのみチェック可

O抗原凝集抗体又は抗ベロ毒素抗体のいずれの検出によるのか、O抗原凝集抗体の場合にはさらにO血清群の種類（157等）を確認し、備考欄に「O抗原凝集抗体の血清群は157」などとその結果を入力します。



3(4) E型肝炎



チェックリスト

- ☐ 診断方法が「検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出」であった場合、遺伝子型を記入しましたか？

12 診断方法

診断方法詳細

- ☐ 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出

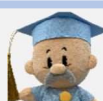
検体

- ☐ 血液
☐ 便
☐ その他

遺伝子型

- ☐ G1
☐ G2
☐ G3
☐ G4

必須



1 診断方法が「検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出」であった場合、遺伝子型を記入しましたか？

診断方法



陽性結果が得られた診断方法を入力します。検査中のものは入力しません。

☐ 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出

「検体」を必ず1つ以上選択します。「その他」がある場合には、空白にせずに具体的な検体名を必ず入力します。

「遺伝子型」は記載されていれば、あるいは地研等の検査で判明していれば、選択します。記載されていない場合、届出後に判明していることもあるので、できれば届出医や地研に判明していないかを確認します。不明の場合には備考欄に「遺伝子型不明」と入力します。

☐ その他の方法

空白にせずに具体的な内容を入力します。ただし、その他の方法のみによる診断は原則として届出対象外です（地方感染症情報センターに確認してください）。

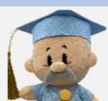
(NESID 入力画面 「診断方法」 欄右上？マークより)

3(5) デング熱



チェックリスト

- ☐ （病型「デング出血熱」を選択した場合）臨床的特徴は届出基準に合致していますか？
- ☐ 検査方法及び検査材料は届出のために必要な検査所見を満たしていますか？



1 （病型「デング出血熱」を選択した場合）臨床的特徴は届出基準に合致していますか？

「デング出血熱」の場合は、下記の4つの基準を全て満たす必要があります。

項目	内容
臨床症状	2～7日持続する発熱（時に二峰性のパターンをとる）
血管透過性の亢進	以下の血漿漏出症状のうち1つ以上 ・ヘマトクリットの上昇（補液なしで同性、同年代の者に比べ20%以上の上昇） ・ショック症状の存在 ・血清蛋白の低下あるいは、胸水又は腹水の存在
血小板の減少	100,000/mm ³ 以下
出血傾向	以下の出血傾向のうち1つ以上 ・Tourniquet テスト陽性 ・点状出血、斑状出血あるいは紫斑 ・粘膜あるいは消化管出血、あるいは注射部位や他の部位からの出血 ・血便

2 検査方法及び検査材料は届出のために必要な検査所見を満たしていますか？

「PCR法による病原体の遺伝子の検出」に尿検体を用いられることがありますが、届出基準では血液のみ認められているため、尿からの検出のみでは届出基準外となります。

3(6) レジオネラ症



チェックリスト

☐ 病型と症状は合致していますか？

病型

病型

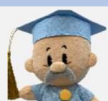
必須

- ☒ 肺炎型
- ☐ ポンティアック熱型
- ☐ 無症状病原体保有者

症状詳細

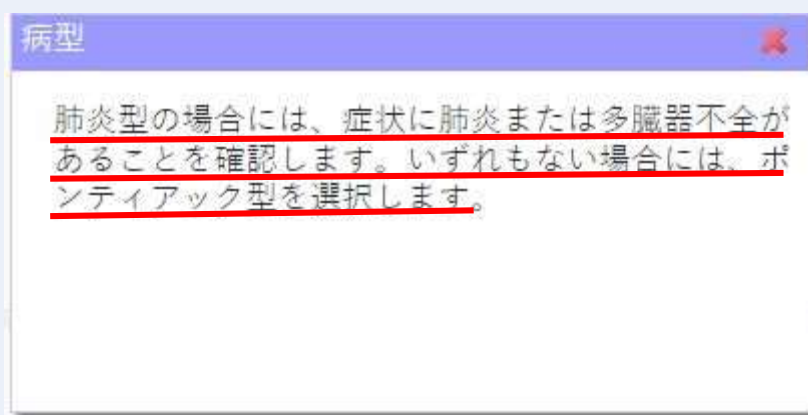
- ☐ 発熱
- ☐ 咳嗽
- ☐ 呼吸困難
- ☐ 腹痛
- ☐ 下痢
- ☐ 意識障害
- ☒ 肺炎
- ☒ 多臓器不全
- ☐ その他
- ☐ なし

解 説



1 病型と症状は合致していますか？

肺炎型の場合には症状に肺炎または多臓器不全があることをご確認ください。
どちらもない場合はポンティアック熱型となります。



(NESID 入力画面 「病型」 欄右上？マークより)

3(7) レプトスピラ症



チェックリスト

- ☐ （重症例、死亡例の場合）基礎疾患は確認しましたか？
- ☐ 感染経路は確認しましたか？



1 （重症例、死亡例の場合）基礎疾患は確認しましたか？

重症例、死亡例では基礎疾患の有無が重要な情報なので、確認し、「その他（）」に入力します。（「感染症発生動向調査事業における届出の質向上のためのガイドライン」より）

2 感染経路は確認しましたか？

ペット飼育

ネズミとの接触

動物との接触

水田・畑での作業

下水処理作業

川でのレジャーを含む活動

等がないかを確認します。

また、ネズミがいるような環境での作業で感染することがあるので、飲食店（魚市場を含む）での勤務も確認します。

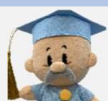
3(8) アメーバ赤痢



チェックリスト

- ☐ 症状がない場合、異常検査所見がなかったかご確認ください

解 説



1 症状がない場合、異常検査所見がなかったかご確認ください

症状

「その他」がある場合には、空白にせずに具体的な内容を入力します。
「なし」「無症状」の入力はしません（無症状者は届出対象外です）。
健診等での病原体検査所見以外の異常検査所見（便潜血等）は症状とみなして入力します。
症状と病型が一致しているかを確認します。

（NESID 入力画面 「病型」欄右上？マークより）

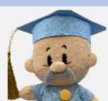
3(9) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症



チェックリスト

- ☐ 届出患者の周辺に保菌者がいないか確認しましたか？

解 説



1 届出患者の周辺に保菌者がいないか確認しましたか？

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌は、院内感染により患者間に伝播することが知られています。届出患者の周辺に保菌者がいないかを確認してください。

調査結果については、可能な範囲で備考欄に記載してください。また、新たに患者が出た場合は、医療機関に発生届の提出を依頼してください。

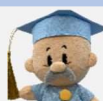
3(10) 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）



チェックリスト

- ☐ 届出時に病原体不明であった症例で、のちに病原体が判明した場合は追加入力をしてください
- ☐ 麻痺急性期の検体採取をお願いします

解 説



1 届出時に病原体不明であった症例で、のちに病原体が判明した場合は追加入力をしてください

2 麻痺急性期の検体採取をお願いします

急性弛緩性麻痺（AFP）の発生動向調査では、世界保健機関（WHO）が主導している国際的な根絶計画の途中にあるポリオ（急性灰白髄炎）の鑑別および原因となる病原体の把握に努め、WHO へ AFP 報告数とポリオウイルスに関する検査結果を報告しています。

県所管域の医療機関で採取された検体は、急性灰白髄炎との鑑別のため、国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所と神奈川県衛生研究所で検査を行っています。麻痺発症後、出来るだけすぐに4点セット（便（発症後1週間以内に24時間以上の間隔をあけて2回）、髄液、咽頭拭い液、血液）の採取をお願いします。

4点セットの採取容器など、詳しくは「急性弛緩性麻痺検査の検体採取について」
https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/003_center/0009_sample/sample/sample_AFP.html（神奈川県衛生研究所 HP）をご覧ください。

容器	親指大くらいの便が入る空容器  直腸拭い液の場合は拭った綿棒を空のスπιツ管にそのまま入れてください(液体は入れないこと) 	滅菌チューブ・スピツ管 (空容器) 	患部を拭った綿棒を折り目で折って短くし、液体培地の中に入れてそのままにすること 液体培地が無い場合は滅菌スピツ管に綿棒をそのまま入れること（ドライスワブ） 	抗凝固剤入り採血管（EDTA-2NaあるいはEDTA-2K）を使用する 
注意事項	細菌培養用の容器(ゲル培地が入った採便管)で採取された検体は検体不適となります 	キャップから検体が漏れ出ないように、スクリーキャップ容器に採取してください	細菌培養用の容器（ゲル培地が入ったスワブ等）で採取された検体は検体不適となります 	- 分離剤が入った血清用採血管での採取は検体不適となります - ヘパリン採血管はPCRを阻害するため検体不適となります

（上記 URL（2026/03/31 アクセス）より一部抜粋）

3(11) 急性脳炎

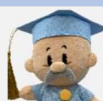
(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)



チェックリスト

- ☐ 届出時に病原体不明であった症例で、のちに病原体が判明した場合は追加入力をしてください

解 説



1 届出時に病原体不明であった症例で、のちに病原体が判明した場合は追加入力をしてください

病原体の鑑別のため、県所管域の医療機関で採取された検体は、神奈川県衛生研究所で検査を行っています。5点セット（便、髄液、咽頭拭い液、血液、尿）の採取をお願いします。詳しくは「急性脳炎検査の検体採取について」

https://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/003_center/0009_sample/sample/sample_AcuteEncephalitis.html（神奈川県衛生研究所 HP）をご覧ください。

【便、髄液】

容器	親指大くらいの便が入る空容器 	直腸拭い液の場合は拭った綿棒を空のスπιツ管にそのまま入れてください(液体は入れないこと) 	滅菌チューブ・スピツ管 (空容器) 
注意事項	細菌培養用の容器(ゲル培地が入った採便管)で採取された検体は検体不適となります 		キャップから検体が漏れ出ないように、スクリューキャップ容器に採取してください

【咽頭拭い液、血液、尿】

容器	患部を拭った綿棒を折り目で折って短くし、液体培地の中に入れてまますること  液体培地が無い場合は滅菌スピツ管に綿棒をそのまま入れること(ドライスワブ) 	抗凝固剤入り採血管 (EDTA-2Naあるいは EDTA-2K) を使用する 	滅菌されたスピツ管 (空容器) 
注意事項	細菌培養用の容器(ゲル培地が入ったスワブ等)で採取された検体は検体不適となります 	- 分離剤が入った血清用採血管での採取は検体不適となります - ヘパリン採血管はPCRを阻害するため検体不適となります	キャップから検体が漏れ出ないように、スクリューキャップ容器に採取してください

(上記 URL (2026/03/31 アクセス) より一部抜粋)

衛生博士のもと！解説 検査結果が陰性であった場合の入力方法



参考：過去に陰性であった場合の備考欄入力内容

ウイルス分離陰性※RD-A、A549、VeroE6、Vero

核酸増幅検査不検出※エンテロウイルス（ライノウイルスも含む）、パレコウイルス、ムンプスウイルス、ヒトヘルペスウイルス、インフルエンザウイルス、RSウイルス、ヒトパラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ヒトアデノウイルス、SARS コロナウイルス 2

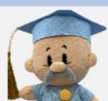
3(12) クロイツフェルト・ヤコブ病



チェックリスト

- ☐ ご不明な点がございましたら、神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）にお問合せください

解 説



1 ご不明な点がございましたら、神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）にお問合せください

クロイツフェルト・ヤコブ病の届出では、病型や診断の確実度などの確認項目が複雑になっています。過去の届出内容からのご助言が可能ですので、ご不明な点がございましたら、お問合せください。（その場合、NESID に入力してからご連絡いただくとスムーズです。）

3(13) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

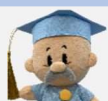


チェックリスト

- ☐ 症状は届出基準に合致していますか？
- ☐ 国立感染症研究所による菌株検査結果が A 群であった場合、T 型別は追記しましたか？

診断方法詳細	必須
血清群	
☐	A 群
☐	B 群
☐	C 群
☐	G 群
☐	その他 (群)
M 型 / T 型別	
☐	M (型)
☐	T (型)

解 説



1 症状は届出基準に合致していますか？

届出基準の症状を満たしていないことがあります。以下の（ア）と（イ）の両方を満たす必要があります。

（ア）ショック症状

（イ）以下の症状のうち2つ以上：肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎（壊死性筋膜炎を含む）、全身性紅斑性発疹、痙攣・意識消失等の中樞神経症状

2 国立感染症研究所による菌株検査結果がA群であった場合、T型別は追記しましたか？

検査結果判明次第、NESIDの修正をお願いします。

衛生博士のもと！解説 M1UK株の入力について



2024年に多く検出されたM1UK株が検出された場合には、下記の通り記載してください。

M型/T型別

☒ M (型)

M1UK株

☒ T (型)

T1

3(14) 後天性免疫不全症候群



チェックリスト

- ☐ CD4 値は入力しましたか？
- ☐ 無症候性キャリア（無症状病原体保有者）の場合、診断契機を入力しましたか？



1 CD4 値は入力しましたか？

届出時に不明であっても、後日判明することがあります。

年報集計時に必ず確認させていただく事項になりますので、判明した場合には後日 NESID への追記をお願いいたします。

検査未実施の場合には備考欄に「検査未実施」と入力してください。

2 無症候性キャリア（無症状病原体保有者）の場合、診断契機を入力しましたか？

自発検査、他の性感染症が契機となった検査、患者のパートナー検査、術前検査等の診断契機が考えられます。HIV/性感染症対策を検討するうえで重要な情報ですので、情報がありましたら備考欄に入力してください。

3(15) 侵襲性インフルエンザ菌感染症



チェックリスト

☐ 血清型は入力しましたか？

5 診断方法

☐ 分離・同定による病原体の検出

検体

☐ 髄液

☐ 血液

☐ その他

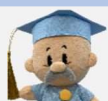
血清型

☐ 未実施

☐ b 群

☐ その他

☐ (重症の場合) 転帰を入力しましたか？



1 血清型は入力しましたか？

未実施の場合は「未実施」にチェックをお願いします。また、国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所による検査により血清型が判明した場合は、NESID の修正をお願いします。

※国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所による検査結果は、菌株提出から数か月後に神奈川県衛生研究所から送付されます。結果確認時に NESID の修正を忘れずにお願いします。

2 （重症の場合）転帰を入力しましたか？

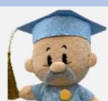
転帰に関する情報（特に死亡を含む重症の転帰をたどった場合）については、疾病のインパクトを図る上で重要ですので、把握できた場合は備考欄に記入してください。

3(16) 侵襲性髄膜炎菌感染症



チェックリスト

- ☐ 血清群は入力しましたか？
- ☐ 疫学情報は入力しましたか？



1 血清群は入力しましたか？

届出時点で不明であっても、後日判明しましたら追記をお願いします。ワクチン施策のためにも重要な情報となります。

2 疫学情報は入力しましたか？

潜伏期間（2～10日）から考えられる感染可能期間の海外居住歴・渡航歴もしくは国内旅行歴や寮等の集団生活との関わりについて 18 感染原因・感染経路・感染地域欄に入力をお願いします。

また、接触者の状況（感染・発病の有無、予防内服実施の有無）について、可能な範囲で備考欄に入力をお願いします。

例文≫「濃厚接触者は●名（同居の妻、子）、かかりつけ医。●名すべて予防内服実施済み。イベント等の参加なし。」

3(17) 侵襲性肺炎球菌感染症



チェックリスト

☐ 血清型は入力しましたか？

5 診断方法

☐ 分離・同定による病原体の検出

検体

☐ 髄液

☐ 血液

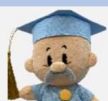
☐ その他

血清型

☐ 未実施

☐ その他

☐ (重症の場合) 転帰を入力しましたか？



1 血清型は入力しましたか？

未実施の場合は「未実施」にチェックをお願いします。また、国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所による検査により血清型が判明した場合は、NESID の修正をお願いします。

※国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所による検査結果は、菌株提出から数か月後に神奈川県衛生研究所から送付されます。結果確認時に NESID の修正を忘れずにお願いします。

2 （重症の場合）転帰を入力しましたか？

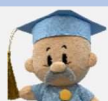
転帰に関する情報（特に死亡を含む重症の転帰をたどった場合）については、疾病のインパクトを図る上で重要ですので、把握できた場合は備考欄に記入してください。

3(18) 水痘（入院例に限る。）



チェックリスト

- ☐ 届出基準上の定義「水痘・带状疱疹ウイルスの初感染による感染症のうち 24 時間以上入院を必要とするもの」を満たしていますか？
- ☐ 病型と診断方法は合致していますか？



1 届出基準上の定義「水痘・带状疱疹ウイルスの初感染による感染症のうち 24 時間以上入院を必要とするもの」を満たしていますか？

神奈川県も参加した 2022 年の感染症流行予測調査事業では、水痘の抗体保有状況は 55 歳以上で 100%となっておりました。そのため、届出基準にある『初感染』かどうかのご確認をお願いします。

医療機関にご確認いただく際は、

- ①『発疹の出現箇所』が全身の様々な箇所であること
- ②『初感染かどうか不明』や『初感染かは判断しかねるため届出た』等をお聞取りいただき、備考欄に追記していただけますと幸いです。

例文≫「〇月〇日から（体の発疹の出現部位を記載）に発疹あり。初感染かどうかは不明」

衛生博士のもと！解説④ 带状疱疹との鑑別方法について



「発疹の出現箇所が片側性では無い（体の右側、左側など片側のみでない）」「3 分節以上に及ぶ（全身の色々なところに発疹が出ている）」「急性期に水痘・带状疱疹ウイルスに対する IgG 抗体が陰性」などを届出元の医師にご確認ください。

▶ 届出が取り下げとなった場合→P71 参照

2 病型と診断方法は合致していますか？

デルマクイックは届出基準の「届出に必要な病原体診断」に含まれないため、施行した検査がデルマクイックのみの場合、「検査診断例」には該当しません。「臨床診断例」の届出基準に合致するかご確認の上、デルマクイックについては診断方法「その他の検査方法」欄に入力してください。

3(19) 梅毒



チェックリスト

- ☐ 病型と症状は合致していますか？
- ☐ 診断方法は正しく入力されていますか？

5 診断方法

診断方法詳細

☐ 患者（確定例）の場合

- ☐ 病変からの病原体の検出（染色法、PCR検査）
- ☐ 次の(1)、(2)の両方の抗体検査による血清抗体の検出
 - 1) カルジオリピンを抗原とする検査
 - 2) T.pallidumを抗原とする検査

☐ 無症状病原体保有者の場合

必須 ☐ 次の(1)、(2)の両方の抗体検査による血清抗体の検出

- ☐ 1) カルジオリピンを抗原とする検査（抗体価を記載、16倍相当以上が必要）結果：（倍、R.U.,U又はSU/ml）
- ☐ 2) T.pallidumを抗原とする検査

☐ その他の方法

☐ 検体

☐ 結果

- ☐ （感染経路「性的接触」の場合）必要な項目（4項目）にチェックはしましたか？

- ☐ 妊娠の有無（女性のみ）のチェックはしましたか？

12 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

自由記述

☐ 妊娠の有無(女性のみ)

- ☐ 有（週）
- ☐ 無
- ☐ 不明

☐ 性的接触

☐ 性交経口

- ☐ A. 性交
- ☐ B. 経口

☐ 異性間同性間

- ☐ ア. 同性間
- ☐ イ. 異性間
- ☐ ウ. 不明

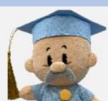
☐ 性風俗産業の従事歴（直近6か月以内）

- ☐ 1. 有
- ☐ 2. 無
- ☐ 3. 不明

☐ 性風俗産業の利用歴（直近6か月以内）

- ☐ 1. 有
- ☐ 2. 無
- ☐ 3. 不明

▶ 届出が取り下げとなった場合→P71 参照



1 病型と症状は合致していますか？

<各病型でみられる症状（届出基準より）>

早期顕症梅毒（Ⅰ期）：初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹等

早期顕症梅毒（Ⅱ期）：梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマ等

晩期顕症梅毒：ゴム腫、心臓血管症状、神経症状、眼症状

2 診断方法は正しく入力されていますか？

	検査方法
①	染色法またはPCR検査等による病原体の検出
②	・次の1)、2)の両方の抗体検査による血清抗体の検出 1) カルジオリピンを抗原とする検査 例) RPRカードテスト、凝集法、自動化法等 2) <i>T. pallidum</i>を抗原とする検査 例) TPLA法、TPPA法、CLIA法、FTA-ABS法等

患者（確定例）の場合：

①または②を満たしている必要があります。

無症状病原体保有者の場合：

②の1)、2)を実施しているかご確認ください。

②の1)では16倍以上又はそれに相当する抗体価であるかご確認ください。

3 性風俗産業の従事歴・利用歴のチェックはしましたか？

収集された届出データは分析され、感染拡大予防の施策立案に役立てられます。可能な限り「性交経口」「異性間同性間」「性風俗産業の従事歴」「性風俗産業の利用歴」の4項目へのチェックのご協力をお願いします。※「性交経口」不明の場合、備考欄に記入

4 妊娠の有無（女性のみ）のチェックはしましたか？

女性の場合、必須項目です。

3(20) 播種性クリプトコックス症



チェックリスト

- ☐ 血液を用いた分離・同定によって病原体が検出された場合、
症状の「真菌血症」はチェックしていますか？

症状

4 症状詳細

必須

- ☐ 頭痛 ☐ 発熱 ☐ 意識障害 ☐ 痙攣 ☐ 麻痺 ☐ 項部硬直 ☐ 呼吸器症状
☐ 胸部異常陰影 ☐ 眼内炎 ☐ 皮疹 ☐ 紅斑 ☐ 骨病変 ☐ 中枢神経系病変 ☒ 真菌血症
☐ その他

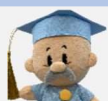
5 診断方法

- ☒ 分離・同定による病原体の検出

検体

- ☒ 血液
☐ 腹水
☐ 胸水
☐ 髄液
☐ その他

解 説



1 血液を用いた分離・同定によって病原体が検出された場合、 症状の「真菌血症」はチェックしていますか？

本来無菌的臨床検体である血液から *Cryptococcus* 属真菌が検出された場合は、真菌血症に該当します。届出医療機関に確認の上、症状欄への追記をお願いします。

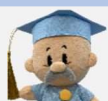
3(21) 破傷風



チェックリスト

- ☐ 予防接種歴は確認しましたか？
- ☐ 転帰は備考欄に入力しましたか？

解 説



1 予防接種歴は確認しましたか？

1968 年から破傷風含有ワクチンの定期接種が導入されています。定期接種の対象者と考えられる場合、接種歴をご確認ください。

2 転帰は備考欄に入力しましたか？

定期接種したにも関わらず抗体を獲得できなかった症例、ならびに定期接種を受けられていない症例等の転帰については、重要な情報となることから、備考欄への転帰の入力をお願いします。

3(22) 百日咳



チェックリスト

- ☐ (分離・同定による病原体の検出の場合) 検体採取日と診断年月日をご確認ください
- ☐ (抗体の検出の場合) 必要な項目にチェックしていますか？

☒ 抗体の検出

抗体の種類

☐ 抗PT IgG

☐ その他

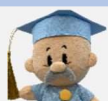
結果

☒ 単一血清で抗体価の高値

☒ 抗体価

☒ 検体採取日 月 日

- ☐ 「感染症法に基づく医師届出ガイドライン 百日咳」は確認しましたか？
- ☐ ワクチン接種当時の年齢・月齢は入力しましたか？



1 （分離・同定による病原体の検出の場合）検体採取日と診断年月日をご確認ください

「分離・同定による病原体の検出」は時間のかかる検査方法のため、検体採取から間もなく診断されている場合には、検査方法に間違いがないか、ご確認ください。

2 （抗体の検出の場合）必要な項目にチェックしていますか？

「抗体の種類」のチェック、「単一血清で抗体価の高値」のチェック、「抗体価」のチェックおよび入力、「検体採取日」のチェックおよび入力が必要です。

3 「感染症法に基づく医師届出ガイドライン 百日咳」は確認しましたか？

特に「抗体の検出」「ペア血清で抗体価の有意上昇・抗体陽転」において、「感染症法に基づく医師届出ガイドライン 百日咳」に合致せず取下げをご検討いただくことがあります。

4 ワクチン接種当時の年齢・月齢は入力しましたか？

接種年月日の入力があっても、接種当時の年齢・月齢が空欄のケースが見受けられます。

お手数ですが、医療機関にご確認の上、入力をお願いします。

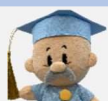
3(23) 風しん



チェックリスト

- ☐ 病型（風しん（検査診断例）/風しん（臨床診断例））は確認しましたか？
- ☐ 発熱出現日、発疹出現日は入力しましたか？
- ☐ 検体採取日は入力しましたか？
- ☐ 検査結果は入力しましたか？
- ☐ ワクチン接種歴は確認しましたか？
- ☐ （女性の場合）妊娠の有無は確認しましたか？

▶ 届出が取り下げとなった場合→P71 参照



1 病型（風しん（検査診断例）/風しん（臨床診断例））は確認しましたか？

医師は、臨床症状から風しんが疑われる症例を診断した時は、（検査結果が出ていなくても）臨床診断例として直ちに届出を行います。

【検査結果“陽性”】

風しん（臨床診断例）から風しん（検査診断例）に修正
診断方法を修正

診断年月日は修正しない

備考欄に「〇月〇日に臨床診断例から病型変更」と入力

【検査結果“陰性”】

診断方法に検体、検体採取日および結果（陰性）を入力

備考欄に「検査により風しん否定」と削除理由を入力

併せて、麻疹の検査を実施していればその結果を備考欄に入力

2 発熱出現日、発疹出現日は入力しましたか？

検査結果の解釈に重要な情報です。

3 検体採取日は入力しましたか？

検査結果の解釈に重要な情報です。

4 検査結果は入力しましたか？

必須項目です。

5 ワクチン接種歴は確認しましたか？

母子健康手帳をご確認の上、出来るだけ全項目を埋めてください。

6 （女性の場合）妊娠の有無は確認しましたか？

女性の場合はご確認ください。

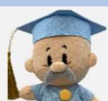
3(24) 麻疹



チェックリスト

- ☐ 病型（麻疹（検査診断例）/麻疹（臨床診断例）/修飾麻疹（検査診断例））は確認しましたか？
- ☐ 発熱出現日、発疹出現日は入力しましたか？
- ☐ 検体採取日は入力しましたか？
- ☐ 検査結果は入力しましたか？
- ☐ 感染源の患者 ID は入力しましたか？
- ☐ ワクチン接種歴は確認しましたか？

▶ 届出が取り下げとなった場合→P71 参照



1 病型（麻しん（検査診断例）/麻しん（臨床診断例）/修飾麻しん（検査診断例））は確認しましたか？

医師は、臨床症状から麻しんが疑われる症例を診断した時は、（検査結果が出ていなくても）臨床診断例として直ちに届出を行います。

【検査結果“陽性”】

麻しん（臨床診断例）から麻しん/修飾麻しん（検査診断例）に修正
診断方法を修正

診断年月日は修正しない

備考欄に「〇月〇日に臨床診断例から病型変更」と入力

【検査結果“陰性”】

診断方法に検体、検体採取日および結果（陰性）を入力

備考欄に「検査により麻しん否定」と削除理由を入力

併せて、風しんの検査を実施していればその結果を備考欄に入力

2 発熱出現日、発疹出現日は入力しましたか？

検査結果の解釈に重要な情報です。

3 検体採取日は入力しましたか？

検査結果の解釈に重要な情報です。

4 検査結果は入力しましたか？

必須項目です。

遺伝子型も判明次第入力してください。

5 感染源の患者 ID は入力しましたか？

積極的疫学調査により感染源となった患者が判明した場合は、感染原因・感染経路欄に入力してください。

6 ワクチン接種歴は確認しましたか？

母子健康手帳をご確認の上、出来るだけ全項目を埋めてください。

ワクチン接種後1か月以内に発症した症例の中には、ワクチンの反応による症状の可能性があります。遺伝子型がワクチン株（A）の場合は、取り下げます。

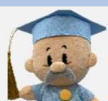
3(25) 薬剤耐性アシネトバクター感染症



チェックリスト

- ☐ 届出患者の周辺に保菌者がいないか確認しましたか？

解 説



1 届出患者の周辺に保菌者がいないか確認しましたか？

薬剤耐性アシネトバクターは、院内感染により患者間で伝播することが知られています。届出患者の周辺に保菌者がいないかを確認してください。

調査結果については、可能な範囲で備考欄に記載してください。また、新たに患者が出た場合は、医療機関に発生届の提出を依頼してください。



4 主な定点把握対象疾患 疾患別チェックリスト

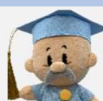
疾患別に、特に重要な項目・これまでに修正が多かった項目を中心に記載しています。

4(1) 急性呼吸器感染症



チェックリスト

- ☐ 他の呼吸器症状を起こす定点把握対象疾患の報告数と比較して、患者数が極端に少なくなっていますか？



1 他の呼吸器症状を起こす定点把握対象疾患の報告数と比較して、患者数が極端に少なくなっているいませんか？

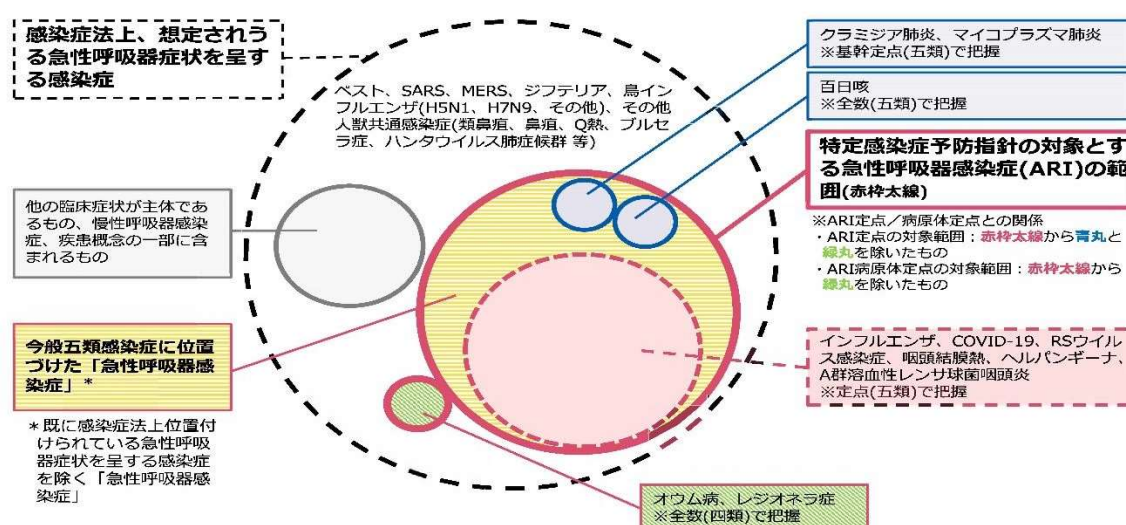
急性呼吸器感染症の症例定義は「咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例」となっています。

他の呼吸器症状を引き起こす定点把握対象疾患（インフルエンザ、COVID-19、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎）として報告した場合であっても、症例定義に当てはまれば急性呼吸器感染症としても報告が必要になります。

インフルエンザの流行期に、急性呼吸器感染症の患者数よりもインフルエンザの患者数が多くなっていることはありませんか？

必要時に定点医療機関に急性呼吸器感染症の症例定義についての再周知をお願いします。

(参考) 感染症法上の急性呼吸器感染症(ARI)の疾患概念の整理



急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスの導入により、将来、新型インフルエンザ等感染症等が発生した場合にも、平時から継続的に動向を把握することが可能になるとともに、平時のサーベイランス体制への移行がスムーズとなることが期待される。

(第98回厚生科学審議会感染症部会 資料1 (2026/07/02 アクセス) より一部抜粋)

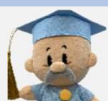
4(2)突発性発しん



チェックリスト

☐ 5歳未満のみの届出となっていますか？

解 説



1 5歳未満のみの届出となっていますか？

突発性発しんの届出基準には、「乳幼児期、特に6～18 か月の間に罹患することが多い。5歳以上はまれである」「届出の対象は5歳未満のみとする」の記載があります。

5歳未満の患者数のみの報告となっているか、ご確認ください。

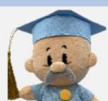
4(3) マイコプラズマ肺炎



チェックリスト

- ☐ 検査方法及び検査材料は届出のために必要な検査所見を満たしていますか？

解 説



1 検査方法及び検査材料は届出のために必要な検査所見を満たしていますか？

過去に検査方法「抗原の検出（イムノクロマト法による病原体の抗原の検出）」で検査材料が届出基準に記載の「気道から採取された検体」以外になっていたケースがありました。

検査所見について、届出基準に合致しているか報告前にご確認ください。

5 その他

(1) 【全数】【定点】修正時のお願い

【全数把握対象疾患】

必要な項目の修正後、**備考欄に修正日および修正内容を記載してください。**

（例）国立感染症研究所による侵襲性肺炎球菌感染症の菌株検査結果が判明し、血清型を入力するとき

「血清型」欄に入力し、

「備考欄」に「20XX 年〇月△日 血清型入力のため修正」と記載

【定点把握対象疾患】

保健所ユーザー側で一度「報告」ボタンを押すとロックがかかります。

修正が必要な際には、「発生動向調査担当者一覧」の神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）担当者あてご連絡ください。

(2) 【全数】届出が取り下げになったとき (NESID データを削除するとき)

■ 以下の手順でデータ削除をお願いいたします。

1. 備考欄に「20XX 年〇月△日 □□□□□のため取下げ」と取り下げ理由を記載します。（□□□□□の例：届出基準に合致しないため、（麻しん・風しんの場合）20XX 年〇月△日採取の咽頭拭い液・血液・尿について衛生研究所で PCR 検査したところ陰性だったため）**このとき、データ削除はまだしないでください。**
2. 「発生動向調査担当者一覧」の神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）担当者あて、データ削除する予定であることをご連絡ください。
3. 神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）担当者がデータ確認終了後にデータ削除依頼のご連絡をしますので、その後データ削除をお願いします。



衛生ちゃんコラム なぜ衛生研究所（感染症情報センター）のデータ確認前に削除してはいけないの？

データ削除を実行すると、当該データの修正はできなくなります。また、個人情報削除されます。

削除データであっても、国立感染症研究所では削除理由を確認し、サーベイランスの質の評価時の根拠とする場合があります。保健所・衛生研究所（感染症情報センター）によるダブルチェックによって精度の高いデータにすることが可能となりますので、必ずデータ削除前にご一報ください。

(3) 【定点】医療機関の休診等により届出様式の提出がない場合

年末年始やゴールデンウィーク、お盆等、医療機関が1週間休診だった場合、当該医療機関分は未報告（赤表示）のまま報告してください。

また、医療機関の都合等で「感染症発生動向調査報告締切日」締切時間後（原則毎週火曜日 12 時以降）に届出様式の提出があり入力する場合は、以下のとおりとしてください。

① 報告締切日翌日（原則水曜日）午前中までに修正入力可能な場合

至急、神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）担当者に連絡

② 報告締切日翌日（原則水曜日）昼以降に届出様式の提出があった場合

週報還元日（原則木曜日）翌日以降、神奈川県衛生研究所 衛生情報課（感染症情報センター）担当者に連絡

①②どちらの場合も NESID にロックがかかっているため、衛生情報課（感染症情報センター）によるロック解除が必要となります。

（参考）修正できない日・時間（原則）

月	火 (報告締切日)	水 (感染研による集計日)		木 (週報還元日)	金	土	日
		AM	PM NESID 集計 中のため ✕	週報作成のため ✕		✕	✕

6 参考文献

- 神奈川県 感染症対応の手引き（令和 7 年 4 月改訂）
- 医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準等について 別紙）（厚生労働省）
- 感染症発生動向調査事業における届出の質向上のためのガイドライン（令和 6 年 3 月）（国立感染症研究所、感染症疫学センター）
- 感染症発生動向調査事業における届出の質向上のためのガイドライン【医師向け】（令和 7 年 3 月）（国立感染症研究所、感染症疫学センター）
- 東京都感染症マニュアル 2018（監修・東京都新たな感染症対策委員会）
- 急性弛緩性麻痺を認める疾患のサーベイランス・診断・検査・治療に関する手引き 第 3 版（「急性弛緩性麻痺等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究」研究班）
- 先天梅毒の届出に関する手引き（国立感染症研究所）
- 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（第三版）百日咳（国立感染症研究所 実地疫学研究センター、感染症疫学センター、細菌第二部）
- 医師による麻しん届出ガイドライン 第五版暫定修正（国立感染症研究所 感染症疫学センター）



いつも感染症情報センター業務に
ご理解・ご協力いただき
ありがとうございます

